

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391400027		
法人名	株式会社 かいごのみらい		
事業所名	グループホーム 乙姫の家		
所在地	熊本県阿蘇市乙姫 2142-10		
自己評価作成日	令和2年1月30日	評価結果市町村受理日	令和2年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和2年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

阿蘇の大自然の中、木のぬくもりを感じられる建物とゆったりとした空間が自慢です。今年度は、開所満10周年の節目の年で、「ケアの原点に帰る」を合言葉に「利用者様目線のケア」「利用者様の楽しみ支援」に取り組んだ。活動や行事の充実、特におやつバイキング、食事バイキングなど、利用者様が自分で選択する楽しみを持ってもらえるように心がけている。地域交流として始めた「子育て支援センター」との交流は9年目となり、お互いの年間計画に位置付け交流している。また、職員の働きやすい環境作りにも取り組み、「おはようでグータッチ」「お疲れ様でハイタッチ」を励行し、利用者様にもその輪を広げている。職員同士、利用者様と職員、仲の良さや団結力が自慢です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して10年、「ケアの原点に帰る」をテーマに、楽しみのある生活等に車椅子での外出や坐位が取れる入居者にはドライブ、朝からのホーム内散歩による下肢筋力低下防止や、活躍の機会を作る等「らしさ」に注視したケアが重度化しても楽しみのある生活となる等、職員のケアに対する熱い姿勢が表れたホームである。平均介護度3という現状は認知的にも厳しい現状もあるが、この一年ホーム内活動を充実させ、職員の意見による運動会等入居者参加型としてテーマを具現化して示している。運営推進会議を生かした運営体制や、開設時より変動の無い管理体制等が家族や地域との関係性を更に一層深めている。入居者同士の労いのある生活やユニットの垣根を超えた日常、職員との馴染みの関係性が漂うとともに、職員の持つ得意分野が発揮された住環境は温かく、日々のケアや委員会活動等達成感のあるホームであるとの職員の声に、今後もますます期待したいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果(きじま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族のようなケア」「利用者様の個性の尊重と継続」「ご家族や地域のかかわりを大切に」この3つの理念に基づき、日々のケアを実践している。理念は事業所内に掲示し、毎朝の朝礼時に唱和している。	開設10年を迎えたホームでは、基本理念に即した事業を展開している。「テーマ」として掲げる「ケアの原点に帰る」を具現化して示し、例えば楽しみ…には活動の充実に反映させており、毎週おやつの日として入居者の手作りしたおやつを職員が呼ばれる等入居者の活躍のある日々等入居者を主役にしたケアに努めている。また、「家族のようなケア」等の理念は温かいホームとして醸成しており、職員の日々のケアに直結させたホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子育て支援センターとは、お互いの年間行事に位置付け、交流している。運動会、夏祭り、誕生会などに招待があり、また、ホームでの食事会やおやつバイキングなどにも参加がっている。地域の祭りにも参加。毎年、開所記念日には近隣を案内し、赤飯などを配っている。	開設時からペンション街という環境を払拭する為の取り組みが功を奏し、長年に亘った子育てセンターとの相互交流の継続や、毎年記念日には近隣を招待し、今年度の10周年感謝の会では保育園児や近隣住民等の参加等により盛会に開催されている。また、廃校で行われた夏祭りや観音様祭り等に出かけ、住民との交流する機会を持つ等入居者も地域に繋がりがながらの生活を支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族会などで、現状報告をしたり、事例報告等を行っている。また、阿蘇市の民生委員部会や地区の有志の見学研修などの依頼があり、グループホームや認知症についての話をさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現況報告及び活動報告を行い、また事例報告等を行い、助言をもらっている。運営推進会議は年間計画に沿って、研修会・事例報告を交互に開催している。地域の情報も得ることができ、地域行事への参加につながっている。	年間計画を立てて開催する運営推進会議は、研修会と事例検討を輪番で行い、介護現場の現状と国と方向性等についての会議等、目的意識を高くして臨み、マンネリ化対策に様々な工夫をしている。ヒヤリ・ハット事例検討では、多くに質問が飛び交う等活発な意見をケア向上に反映させている。また、身体拘束等の適正化として運営推進会議の中で年に2回開催し、職員へのアンケートなども開示し、意見を交わしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から、利用者のことで相談したり、日常的に連携が取れている。運営推進会議には、介護保険担当者の出席が毎回ある。また、担当者から入所相談があったりする。	管理者は研修参加依頼(実践者研修や管理者研修等)や、共用デイ、短期入所等の受入を相談に行政に出かけたり、行政からも在宅生活困難者の入居相談を受ける等相互協力しながら地域高齢者を支援している。また、行政と福祉事務所との入居相談等に対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束”ゼロ”を掲げ、年に数回虐待を含めた研修会を開催。職員のストレスチェックを行ったり、拘束しないケアを実践している。言葉による拘束等にも配慮している。	身体拘束廃止に向け、マニュアルを見直し、身体拘束適正化に対する基本的な考え方を共有するとともに、職員の意見により、ストレス不適切ケアに関するアンケートを行い、自己の行動(職員の声かけ、特に危険を防ぐための声掛けが行動制限になる可能性も有り得るとしている。)を振り返っている。開設時から、身体拘束廃止宣言をしたホームであるが、委員会によりまずは検討し、全体会議や回覧により周知徹底に努めている。また、寄り添うのケアとは何か、そのために何をすべきかという志向を高くして臨んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を開催するとともに、対応の困難な利用者があれば、カンファレンス等で検討し、ケアの統一につなげている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用中の方がいらっしゃることで、職員は身近に成年後見制度を感じているが、本年度は勉強会を実施できていない。サービス担当者会議など、後見人から直接後見人の仕事等について話を聞く機会もある。勉強会の必要性を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書をもとに説明を行い、承認を得ている。改定などの際は、事前に文書で説明したうえで承諾をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・サービス担当者会議などで、ご家族の意見を聞いている。また、面会時などにご家族の要望や意見を聞いている。	入居者には食へのアンケートや行事等を聞き取りしている。家族会や担当者会議、意見箱等により意見や要望等を収集し、家族も気になる事案は訪問時に直接申し出られており、サービスに反映させている。10周年感謝の会では10年間を開示し、個人用のアルバムを毎年作成し我が家での話題作りの一環として提供するなど家族との関りも大切に、また、運営推進会議も問題提起の場としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議には本部から社長はじめ3名が毎回参加。ホームの現状などについて、職員と直接話す機会もある。また、管理者会議等でも各ホームの状況・課題等の把握がなされ対応がある。	法人側(社長等)も参加される毎月の職員会議は、会社の現状を知る機会となり、意見や提案等を出す機会として生かされる等職員が意見を言える環境が整えられたホームである。また、法人5グループホームの管理者会議や法人による内部監査として系列グループホームが持ち回り評価する等サービス向上への志向を高くして取り組んでいる。日々のケアや委員会活動等達成感が日々感じられるとの職員の言葉にモチベーションの高さも表れたホームであり、管理者を中心に風通しの良い環境は様々な工夫としてケアサービスに生かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人一体となって、業務改善や働き方改革を推奨している。人事考課に取り組むことを前提に課業内容の精査、社労士による研修が継続的にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は年間計画に沿って実施。本年度認知症実践者研修を2名が終了。日赤の救急講習や生活支援研修など、法人一体となって職員を育てる取り組みがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所阿蘇ブロックで、定例会を持ち、交流する機会がある。年2回は、ブロックで研修会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や担当ケアマネ、病院であれば相談員と連携しながら、情報を得、職員で情報の共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時から、ご家族の困りごとや思いを聞き、契約時には介護についての方向性を確認している。また、ホームの理念である、「家族とともに利用者様を支える」ことを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に、ケアプランを提示し、ケアの内容がご家族の意向やケアについての希望となっているかを確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様がおやつを作る時には、職員の分を作っていたり、行事や活動などで日課が変わる時なども利用者様をお願いしたり、日々の生活の中で助け合う関係となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を年2回開催し、運営や年次計画などの了承を得ている。1回/2か月は、各居室担当者が手紙で近況報告などを行っている。新聞も併せて送付し、家族からは大変喜ばれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室利用を継続されている方も数人ある。地域で守られている子安河原観音祭では案内があったり、昔馴染みの方たちとの交流の場となっている。	入居しても美容室からの送迎により馴染みの関係性を継続した入居者、姉妹での入居(誕生日には二人で詩吟に興じる)、盆・正月の帰省や家族との買い物等の家族の協力を受けながら支援している。観音様祭りへの外出は知人等との交流の場として生かされ、入居者と職員との馴染みの関係も築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「乙姫の家はひとつ」をモットーとしているため、両ユニットの職員同士も利用者様同士も仲が良く日々の活動や散歩などで声を掛け合っている。ピョピョ交流などでは、看取りや居室で過ごすことが多い方にも訪室して交流をしてもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居であれば、情報提供を密に行い、安心してサービス利用ができるよう支援している。亡くなられた方には初盆までは、お参りをさせてもらっている。中には、亡くなられて数年たっても、相談や近況報告の電話を頂いたり、ホームに物資(菓子やビニール袋など)の支援をして下さる方もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネや居室担当が定期的に本人様の希望等について個別に聞いたりしている。意思確認が困難な方には、ご家族に確認するなどして、思いの実現への支援に努めている。	食べたいもの等アンケート(聞き取り)により把握したり、日々の関わりの中で聞き取りしており、10時のおやつタイムへの希望等も出されている。耳の聞こえが悪い方には筆記等の非言語的なコミュニティとしたり、意思疎通困難な状況には、職員が気づきや観察結果等に家族に代弁しながら思いを実現されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、担当ケアマネや家族に情報提供をお願いし、その方の生活歴・病歴などを確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子観察し、毎月モニタリングを実施。1回/3か月のカンファレンス、月1回のユニット会議などの中で、本人の有する能力や課題や思いについて状況把握に努めている。定期的なアセスメントも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが直接本人様に意向を確認した上で、チームの意見を聞きながら、毎月のモニタリングやカンファレンスで見えた課題を基にケアプランを作成している。	サービス計画書の要約版を日々の記録に貼り、プランに応じた記録をプラン作成に反映させている。各担当職員による毎月のモニタリング、3ヶ月毎のカンファレンスにより支援内容等を検討し、今後の方針対応を見極め、ケアプラン見直しに担当者会議として家族にも参加を呼びかけ、話し合っている。楽しみや喜びのある生活を送れることを総合支援とする等ホームが目指すテーマも組み入れたり、役割のある日常等個性のある具体的なプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきなどを個人記録に残す、また、申し送りノートなどを活用し情報の共有に努めている。状況によっては、その日の朝礼等でケアの見直しを行い、実践することもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族の希望で、訪問美容室や訪問歯科に来てもらっている。山菜の時期には、山菜が食べたいとの希望があるため、山菜を食べる会を開催したり、その時々々のニーズにも対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭り参加や子育て支援センターとの交流を継続している。子育て支援センターの運動会や夏祭り、誕生会などに参加。ホームでの食事交流会なども行い、子供たちとの交流が楽しみとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医や主治医には、何かあれば相談し指示をもらって対応している。往診時には、書面で状態を報告し、診療が適切に行えるよう支援している。	現在2か所の医療機関による往診となっており、書面で状態を報告している。看護師資格者が多く配置されており健康管理を徹底し、バランスの良い食事や運動に加え、起床時や毎食前のお茶うがいなど入居者の健康につながるよう日々取り組んでいる。また、歯科については、希望者のみ訪問診療による治療がおこなわれ、口腔機能維持管理にかかわる助言内容は、全職員で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職が連携して健康管理に努め、日々の情報や気づきを共有している。夜間、看護師不在時にもオンコール体制で看護職員が相談・助言に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院のカンファレンス等に参加。サマリー以外にも直接、情報を伝えるなどしている。市内の各病院の相談員とは顔の見える関係で関係は良好。連携は取れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した時の介護の方向性の確認と看取りについて、ホームでできること、できないことについて説明している。現在、主治医と連携しながら看護職員を中心に、2名の方の看取り支援を行っている。	入居時にホームにできうる看取り支援について説明を行い、その時点での本人・家族の意向を確認し、状態変化に応じて医師を含めて方向性などを話し合っており、ほとんどの方がホームでの最終を望まれている。特養を申し込まれている場合に入所の連絡が来ても、ホームでの生活を望まれる方家族もあり、主治医と連携しながら入居者の最終章を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、通報訓練なども行っている。内部研修等で緊急時の対応について学ぶ機会がある。また、本年度は、日赤の救急救命研修会に2名が参加し、その後研修会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定火災訓練を行っている。同時に緊急連絡網に沿った通報訓練も実施している。近くに、グループ企業があり、日頃から協力体制が出来ている。	年2回、ヘッドライトを装着した訓練等、夜間想定火災訓練を消防署や防災業者の立会いで実施している。訓練後の総評では、避難経路や戸締りの確認で指導やアドバイスを受けており、職員間で今後生かすこと共有している。近くの宿泊施設オーナーやグループ企業とは連携や協力関係が確認されている。台所をはじめ火元の管理と、コンセントの埃や加湿器の掃除も、研修前の環境整備委員会を中心に徹底し、カップ麺や缶詰、誘導ロープ等の備蓄や、水は各居室にその方用(2リットルペットボトル6本)として、保管している。	昨今の自然災害のもたらす被害は想像を超えるものであり、今後も火災以外についてもあらゆる想定を行い、有事に備えていかれることを期待したい。マンション住民の方々には緊急先として協力されており、消防団員に再度ホーム内を確認してもらおう事を検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の出入り、排せつ時、入浴時など、相手の立場に立った声掛けを行うよう努めている。	日々の暮らし(起床やホールに集う時間等)体調や希望により支援している。管理者は寄り添いのケアも、その方にあったどのような寄り添いかを職員が考えて支援することの重要性を指導している。また、開設10年を迎え、ケアの原点に振り返り入居者目線でのケアを共有し、日々の業務にあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のその時々で本人様の意思確認を行ってのケアに努めている。意思の表出が困難な方には、個別に居室等で聞いたり、ご家族に確認しながら自己決定ができるような雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決めているが、その日の利用者様の状況を見ながら支援している。食事時間や居室で過ごす時間、みんなで過ごす時間など本人様のペースを優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、職員が本人様に聞きながら、パジャマから日常着に着替えてもらっている。誕生日会や行事などでは、化粧を手伝ったり、本人様好みの洋服を着てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ごぼうのさがき、芋の皮むきなど手伝いをお願いしたり、食後の茶碗拭きなどを手伝ってもらっている。また、旬の食材をメニューに取り入れたり、リクエストの多いメニューを取り入れたりしている。バイキング食も定期的に実施している。	栄養士の作成した献立を基本に、普段の調理は専任者や管理者が中心に行っているが、ゴボウのさがきや芋の皮むきなど入居者の出番が用意されている。入居者に選択肢(散らし寿司と巻き寿司どちらが好きですか?など)を投げかけながら聞き取りし、週1回入居者主体のおやつ作りの日として、ホットプレートを活用したお好み焼きやフレンチトースト、ホットケーキ作り等が行われ、入居者が職員を招くという特徴ある取り組みが行われている。	季節感のある手作りの日々の食事は行事食と共に好評である。職員は持参した弁当などを摂っており、今後もアンケートや残菜、入居者の表情などから満足度を把握し、入居者の楽しみとなる食事支援の継続に期待したい。また、可能な限り洗い物については、時間をおいて取り組まれることが望ましいと思われ、検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた栄養バランスの良いメニューを提供。食事形態もそれぞれの利用者様に合わせ、食べやすいように支援している。食事量も記録し、必要な栄養が取れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科と連携し、口腔ケアの充実を図っている。個々人に合わせ、歯間ブラシ、口腔スポンジなども使用。毎食後の口腔ケアはもちろん、食前のお茶うがいも行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人様の意向を尊重し、できる限りトイレでの排泄支援を行っている。排泄はチェック表にて把握し、尿量計測の必要な方、服薬にて排便コントロールが必要な方など個々の利用者様に合わせた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、可能な限りトイレでの排泄を支援し、夜間のみポータブルトイレを使用される方の対応や、声かけ・誘導、大きめのパット使用など個々に応じて支援している。便秘の予防として水分確保や散歩・体操、繊維質の多い食材の活用と起き抜けの白湯の提供等支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起き抜けの白湯や氷水を毎朝提供。食後もお茶のお代わりを勧め、できるだけ水分をとってもらうようにしている。また、毎日の散歩・体操を継続。食事でも繊維が多く取れるよう支援している。また、排便チェック表を確認しながら、服薬にて排便コントロールを支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は利用者様毎に決めているが、本人様の体調や希望によって曜日や時間をずらしている。入浴を好まれない方への声掛けにも工夫している。しょうぶ湯やゆず湯、入浴剤も使用している。	入浴は希望や皮膚疾患時など状況に応じて週2～3回支援し、入浴されない場合には清拭としている。又、シャワー浴が中心になられた方には、足浴をしながら温まってもらっている。冬至の時期は職員が持参した柚子を3日間使用し、居室での清拭時にもバケツに柚子を入れて雰囲気や香り等で楽しんでもらい、浴室に薔薇を飾ったり、花びらを浮かべるなど職員のアイディアにより楽しみな入浴を支援している。入浴拒否者には、行事前に声を掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の状況を見ながら、居室での休息を支援。室温や寝具などの調節など快適に過ごせるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様個々の薬剤情報にて目的(効能)や副作用を確認するよう努めている。服薬はチェック表を用いて、手渡し、口の中に入れるなどして飲み込みまで確認している。薬変更時は、確実に申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の下ごしらえ、茶碗拭き、洗濯物畳、体操時の号令かけなど本人様に合わせた役割をお願いしている。誕生会などで詩吟を披露される方もいる。また、おやつバイキング、お楽しみクラブなど日々の生活の中で楽しみ支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の希望に沿って戸外へ出かけることはなかなかできない状況である。買い物や外食などご家族に協力してもらっている。	朝からのホーム内散歩、庭先での外気浴、観音様参りや今年は10日ほどかけての二社参りに半数の方が参加されている。毎朝の散歩を楽しまれる方や馴染みの美容室の協力で施術を受けられる方もおられる。正月の外泊や日帰り帰省、定期的に家族の迎えでファミレスやショッピングセンターでの食事、衣類の購入など家族に協力により支援している。	現在、車いす対応の車両がなく、車いす利用の方は近隣の散歩が中心であるとのこと。リフト付き車両が納車予定であり、地域の行事や買い物など外出の幅が広がるのが大いに期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	お金を管理できる方は、ほとんどおられない。ご家族の理解のもと、数千円の現金を持たれている方もいるが、基本的にはホームで管理し、希望のヤクルト商品などの購入やおむつ購入などの領収書やレシートをご家族に送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれる方は、おられない。電話は自由に使用できる環境にある。電話の希望があれば都度支援している。自ら、テレビ電話で、家族に電話される方も数名おられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や野菜を飾ったり、調理の音、匂いなどを感じてもらい、居心地のいい環境づくりに努めている。また、車いすの方が移動しやすいように、整理整頓に努めている。	ホーム内の掃除は専任者に加え、環境委員主導により勉強会前の30分間にフィルター掃除、整理整頓等を行っている。玄関前には花のプランターや球根を植えた一人ひとりの鉢が並び、入居者も開花を楽しみにされている。玄関内に置かれたスタンドボードには、2ヶ月間のの行事(誕生会やイベントなど)が紹介されている。ユニットの垣根を超えたレクレーション等、賑やかな声がホール漂い、草花(ナズナなど)を器に挿すことで、より季節感のある空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事や活動では、気の合う方同士の席を配慮したり、グループで新聞を読まれたりと、楽しく思い思いに過ごせるよう支援している。また、廊下に置いた椅子で過ごされる方もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が居心地よく過ごせるよう、物の配置を考えたり、家族の写真を飾ったりしている。ご家族に本人様が使い慣れたものや好きなものを持ってきてもらうようお願いするが、持って来られる方は少ない。	本人が過ごしやすい環境とすべく換気や掃除の徹底及び配置を検討し、物が増えすぎた方には、状況に応じ家族に持ち帰りを依頼している。また、居室前のボードには、色鉛筆を使った塗り絵の作品等や家族が準備された品の他、担当職員のアイデアが生かされ、共有空間の雰囲気を一層和やかにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで、各所に手すりの設置をしている。利用者様の動線に障害物となるようなものを置かないようにし、安全に移動できるよう心掛けている。出来ることをしてもらうために、安全面も考慮し、準備等の支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果(えぼし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族のようなケア」「利用者様の個性の尊重と継続」「ご家族や地域のかかわりを大切に」この3つの理念に基づき、日々のケアを実践している。理念は事業所内に掲示し、毎朝の朝礼時に唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子育て支援センターとは、お互いの年間行事に位置付け、交流している。運動会、夏祭り、誕生会などに参加。また、ホームでの食事会やおやつバイキングなどにも参加が あっている。地域の祭りにも参加。毎年、開所記念日には近隣を案内し、赤飯などを配っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族会などで、現状報告をしたり、事例報告等を行っている。また、阿蘇市の民生委員部会や地区の有志の見学研修などの依頼があり、グループホームや認知症についての話をさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現況報告及び活動報告を行い、また事例報告等を行い、助言をもらっている。運営推進会議は年間計画に沿って、研修会・事例報告を交互に入れている。地域の情報も得ることができ、地域行事への参加につながっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から、利用者のことで相談したり、日常的に連携が取れている。運営推進会議には、介護保険担当者の出席が毎回ある。また、担当者から入所相談があったりする。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束”ゼロ”を掲げ、年に数回虐待を含めた研修会を開催。職員のストレスチェックを行ったり、拘束しないケアを実践している。言葉による拘束等にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を開催するとともに、対応の困難な利用者があれば、カンファレンス等で検討し、ケアの統一につなげている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用中の方がいらっしゃることで、職員は身近に成年後見制度を感じているが、本年度は勉強会を実施できていない。サービス担当者会議など、後見人から直接後見人の仕事等について話を聞く機会もある。勉強会の必要性を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書をもとに説明を行い、承認を得ている。改定などの際は、事前に文書で説明したうえで承諾をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・サービス担当者会議などで、ご家族の意見を聞いている。また、面会時などにご家族の要望や意見を聞いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議には本部から社長はじめ3名が毎回参加。ホームの現状などについて、職員と直接話す機会もある。また、管理者会議棟でも各ホームの状況・課題等の把握がなされ対応がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人一体となって、業務改善や働き方改革を推奨している。人事考課に取り組むことを前提に課業内容の精査、社労士による研修が継続的にあっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は年間計画に沿って実施。本年度認知症実践者研修を2名が終了。日赤の救急講習や生活支援研修など、法人一体となって職員を育てる取り組みがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所阿蘇ブロックで、定例会を持ち、交流する機会がある。年2回は、ブロックで研修会を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や担当ケアマネ、病院であれば相談員と連携しながら、情報を得、職員で情報の共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時から、ご家族の困りごとや思いを聞き、契約時には介護についての方向性を確認している。また、ホームの理念である、「家族とともに利用者様を支える」ことを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に、ケアプランを提示し、ケアの内容がご家族の意向やケアについての希望となっているかを確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様がおやつを作る時には、職員の分を作っていたり、行事や活動などで日課が変わる時なども利用者様をお願いしたり、日々の生活の中で助け合う関係となっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を年2回開催し、運営や年次計画などの了承を得ている。1回/2か月は、各居室担当者が手紙で近況報告などを行っている。新聞も併せて送付し、家族からは大変喜ばれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で守られている子安河原観音祭では案内があったり、昔馴染みの方たちとの交流の場となっている。交流して9年目となる子育て支援センターとの関係は良好で、年間計画に上げない交流も増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	。「乙姫の家はひとつ」をモットーとしているため、両ユニットの職員同士も利用者様同士も仲が良く日々の活動や散歩などで声を掛け合っている。ピョピョ交流などでは、看取りや居室で過ごすことが多い方にも訪室して交流をしてもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居であれば、情報提供を密に行い、安心してサービス利用ができるよう支援している。亡くなられた方には初盆までは、お参りをさせてもらっている。中には、亡くなられて数年たっても、相談や近況報告の電話を頂いたり、ホームに物資(菓子やビニール袋など)の支援をして下さる方もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネや居室担当が定期的に本人様のお香について個別に聞いたりしている。意思確認が困難な方には、ご家族に確認するなどして、思いの実現への支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、担当ケアマネや家族に情報提供をお願いし、その方の生活歴・病歴などを確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子観察し、毎月モニタリングを実施。1回/3か月のカンファレンス、月1回のユニット会議などの中で、本人の有する能力や課題や思いについて状況把握に努めている。定期的なアセスメントも実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが直接本人様に意向を確認した上で、チームの意見を聞きながら、毎月のモニタリングやカンファレンスで見えた課題を基にケアプランを作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気付きなどを個人記録に残す、また、申し送りノートなどを活用し情報の共有に努めている。状況によっては、その日の朝礼等でケアの見直しを行い、実践することもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族の希望で、訪問美容室や訪問歯科に来てもらっている。山菜の時期には、山菜が食べたいとの希望があるため、山菜を食べる会を実施したり、その時々々のニーズにも対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭り参加や子育て支援センターとの交流を継続している。子育て支援センターの運動会や夏祭り、誕生会などに参加。ホームでの食事交流会なども行い、子供たちとの交流が楽しみとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医や主治医には、何かあれば相談し指示をもらって対応している。往診時には、書面で状態を報告し、診療が適切に行えるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職が連携して健康管理に努め日々の情報や気づきを共有している。夜間、看護師不在時にもオンコール体制で看護職員が相談・助言に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院のカンファレンス等に参加。サマリー以外にも直接、情報を伝えるなどしている。市内の各病院の相談員とは顔の見える関係で関係は良好。連携は取れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した時の介護の方向性の確認と看取りについて、ホームでできること、できないことについて説明している。現在、主治医と連携しながら看護職員を中心に、2名の方の看取り支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、通報訓練なども行っている。内部研修等で緊急時の対応について学ぶ機会がある。また、本年度は、日赤の救急救命研修会に2名が参加し、研修会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定火災訓練を行っている。同時に緊急連絡網に沿った通報訓練も実施している。近くに、グループ企業があり、日頃から協力体制が出来ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の出入り、排せつ時、入浴時など、相手の立場に立った声掛けを行うよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の時々で本人様の意思確認を行ってのケアに努めている。意思の表出が困難な方には、個別に居室等で聞いたり、ご家族に確認しながら自己決定ができるような雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決めているが、その日の利用者様の状況を見ながら支援している。食事時間や居室で過ごす時間、みんなで過ごす時間など本人様のペースを優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、職員が本人様に聞きながら、パジャマから日常着に着替えてもらっている。誕生会や行事などでは、化粧を手伝ったり、本人様好みの洋服を着てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ごぼうのささがき、芋の皮むきなど手伝いをお願いしたり、食後の茶碗拭きなどを手伝ってもらっている。また、旬の食材をメニューに取り入れたり、リクエストの多いメニューを取り入れたりしている。バイキング食も定期的実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた栄養バランスの良いメニューを提供。食事形態もそれぞれの利用者様に合わせ、食べやすいように支援している。食事量も記録し、必要な栄養が取れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科と連携し、口腔ケアの充実を図っている。個々人に合わせ、歯間ブラシ、口腔スポンジなども使用。毎食後の口腔ケアはもちろん、食前のお茶うがいも行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人様の意向を尊重し、できる限りトイレでの排泄支援を行っている。排泄はチェック表にて把握し、尿量計測の必要な方、服薬にて排便コントロールが必要な方など個々の利用者様に合わせた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起き抜けの白湯や氷水を毎朝提供。食後もお茶のお代わりを勧め、できるだけ水分をとってもらえるようにしている。また、毎日の散歩・体操を継続。食事でも繊維が多く取れるよう支援している。また、排便チェック表を確認しながら、服薬にて排便コントロールを支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は利用者様毎に決めているが、本人様の体調や希望によって曜日や時間をずらしている。入浴を好まれない方への声掛けにも工夫している。しょうぶ湯やゆず湯、入浴剤も使用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の状況を見ながら、居室での休息を支援。室温や寝具などの調節など快適に過ごせるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様個々の薬剤情報にて目的(効能)や副作用を確認するよう努めている。服薬はチェック表を用いて、手渡し、口の中に入れるなどして飲み込みまで確認している。薬変更時は、確実に申し送りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の下ごしらえ、茶碗拭き、洗濯物畳、体操時の号令かけなど本人様に合わせた役割をお願いしている。誕生会などで詩吟を披露される方もある。また、おやつバイキング、お楽しみクラブなど日々の生活の中で楽しみ支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿って戸外へ出かけることはなかなかできない状況である。買い物や外食などご家族に協力してもらっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できる方は、ほとんどおられない。ご家族の理解のもと、数千円の現金を持たれている方もあるが、基本的にはホームで管理し、希望のヤクルト商品などの購入やおむつ購入などの領収書やレシートをご家族に送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれる方は、おられない。電話は自由に使用できる環境にある。電話の希望があれば都度支援している。自ら、テレビ電話で、家族に電話される方も数名おられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や野菜を飾ったり、調理の音、匂いなどを感じてもらい、居心地のいい環境づくりに努めている。また、車いすの方が移動しやすいように、整理整頓に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事や活動では、気の合う方同士の席を配慮したり、グループで新聞を読まれたりと、楽しく思い思いに過ごせるよう支援している。また、廊下に置いた椅子で過ごされる方もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が居心地よく過ごせるよう、物の配置を考えたり、家族の写真を飾ったりしている。ご家族に本人様が使い慣れたものや好きなものを持ってきてもらうようお願いしますが、持って来られる方は少ない。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで各所に手すりの設置をしている。利用者様の動線に障害物となるようなものを置かないようにし、安全に移動できるよう心掛けている。出来ることをしてもらうために、安全面も考慮し、準備等の支援を行っている。		